

このワークショップ資料は、大阪人権博物館と新設Cチーム企画が主催した2012年6月9日(土)の「学校教育と性的少数者 Part 2～学校で生き抜く工夫、支える工夫～」というイベントで使用されたものです。当日は前半は当事者の若者4人に学校での工夫や経験談を語ってもらい、後半でグループワークをしました。(70人参加)研修、勉強会などにどうぞ活用ください。(新設Cチーム企画)

## ワーク「LGBTの子どもを支える工夫を考えよう！」

### 進行手引き

#### ★用意するもの

- ・人数分のえんぴつ(消しゴムもあれば)(マップ記載のため)
- ・セロテープまたはのり(支援アイテムを貼り付けるため)
- ・色々なマジック(1グループに2～3色)  
(ケースのマップにコメントを入れたり、オリジナル支援アイテムを作るため)
- ・ファシリテーター(5～6人につき1人)

#### 【ワークショップ1】「お助けマップを描いてみよう！」(20分)

1) 司会がワークと注意事項の説明…LGBT便利帳P16、17を参照(5分)

目的:自分の資源は何か、自分の傾向は何か、確認する

★注意1、他人に見せるものではないので見せなくていい

- 2、見られたくない人もいるからのぞきこまないように
- 3、絵で描かなくてもよい。

2) 参加者が自分の「お助けマップ」を作る(4分)

3) 課題2つの対策を3つ考えてワークシートに記載する…LGBT便利帳P16、17を参照(5分)

・Aケース「失恋しちゃった」Bケース「全財産を失っちゃった」

4) グループ分け(ファシリ入れて5～6人が理想的)(6分)

・ワークの感想を沿えた自己紹介を一通りまわす

★注意:自分のマップを見せあうのではなく、ワークを試してみた感想を述べてもらう

## 【ワークショップ2】「ケースで支援を考えよう！」(60分)

- 1) 司会がケースA～Dを説明文を読み上げて紹介する
- 2) A2サイズに拡大したマップとひとつずつ切り分けた支援アイテムをグループ毎に配布する。(1グループにひとつのケース。)
- 3) 司会がワークのやり方について、参加者が順番に支援アイテムを選び、どう使うかを説明し、マップに貼りつけていくことを説明する。(ここまでで10分)

★注意1、あれもダメこれもダメではなく、あれもアリ、これもアリというスタンスで。

- 2、非現実的だったり突飛な方法もOK！自由に発想してもらう。
- 3、マップにない設定も自由に書き込んで付け加えてよい。
- 4、支援のヒントや配布資料、LGBT便利帳も参照してもらう
- 5、★資料の注意事項の確認「決めつけない」「カテゴリーでなく具体対策を」
- 6、気分が悪くなったりつらくなったら自主的に抜けて休憩してください。

### 4) 話し合いスタート！(30分)

- ・ファシリはマップに記載されているすべての情報を読みあげて家族、友人、学校、その他の状況を確認する
- ・支援アイテムをひとりひとつ選んで説明してからマップに貼り付ける  
(ファシリが見本に最初にやってみせる)
- ・それぞれの提案について意見を言い合いながらまわしていく(5周ぐらいまわすのが理想)

※もし話が盛り上がらないとか、話が止まってしまったりしたら「支援のヒント」や配布資料、LGBT便利帳も参照してもらう

### (5) まとめ(20分)

- ・グループでどんな支援案が出たか、ファシリ毎に発表する
- ・質疑応答があればする

### ■新設Cチームからのメッセージ■

- ・具体的なケース検討によって、LGBTの子どもたちのことが前よりも少し立体的にとらえることができたならワークは成功です。
- ・LGBT特有の配慮、が必要なのは事実ですが実際の現場ではひとりひとり違うその子自身の声を聞くことになるので、先入観にとらわれず、個別に柔軟に対応してほしいです。
- ・そして収穫は、参加者自身の暮らしや人間関係の見直しになったことではないでしょうか。自分で記入したマップは人生観を映す鏡かもしれないし、自分の取扱説明書かもしれないし、宝探しの地図かもしれないのです。LGBTについて知ることによって性別観が広がったように、お助けマップと支援のシミュレーションによって、人生には見えない広がりがあると感じてくれたら、そして人生は自ら創造していくものだと感じてもらえたらいいなと思います。

# ワーク「LGBTの子どもを支える工夫を考えよう！」

## ファシリ用手引き

### 【ワークショップ1】「お助けマップを描いてみよう！」(20分)

- ①説明 → ②マップ作り → ③課題に挑戦 → ④グループ共有
- ・各自マップを描いて、課題を終えたのち、司会の指示でグループに分かれる
  - ・マップを作った感想をそえて自己紹介をまわす
  - ・時間がないのですぐにワーク2に行けるように準備してください。

### 【ワークショップ2】「ケースで支援を考えよう！」(60分)

- ①説明 → ②ファシリの状況確認 → ③ファシリ手本 → ④参加者に回す
- ・1グループでひとつのケースについて考えていく
  - ・A2サイズのケースのマップをグループの中央に置く
  - ②ファシリがマップ内の関係性を全てあげて状況を確認する
  - ・資料内の「支援の視点」を読んでアイテム選びの参考にするように紹介する
  - ③まずファシリ「支援アイテム」の中からひとつ選んでマップに置いてどう使うか提案して見本を見せる
  - ④参加者に「支援アイテム」をひとりひとつずつ選んでもらいどう使うか提案してもらう
  - ・空白のアイテムもあるので独自の支援を書き込むのもOK
  - ・アイテムを貼り付ける時にコメントが必要であればマジックでマップに書き込む
  - ・参加者が戸惑っていたら「支援の視点」や配布資料をヒントにしてもらう。
  - ・提案についてそのつど感想を話したり、付け加えないか他の参加者に聞いてみる
  - ・全員にまわし、時間のかぎり回す。5週ぐらいできたら理想的。
  - ⑤まとめ発表
- ファシリが支援が張り付けられたマップをもってどんな提案がされたかまとめて発表する

### ★注意事項

- ・マップ内に書かれている関係のみにこだわらず、設定を付け加えてもらうのも大アリ・非現実的な提案も積極的に受け付ける
- ・さまざまな可能性を想像力を働かせて考えてもらうよう促す
- ・子どもだし特にLGBTかどうかは決めつけず、アイデンティティやLGBTとしての将来ではなく、今の具体的な悩みに焦点を当てるようにする
- ・特定の人ばかりが話すようであれば他の参加者にも意見を聞いてみる
- ・しんどそうになっている人がいたら休憩をうながす